

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立新野小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

**自ら学び、心豊かな新野の子を育成する。**  
**に** にこにこ (人や自分を大切にする子)  
**い** いきいき (めあてをもって学ぶ子 すすんで働く子)  
**の** のびのび (元気に運動する子)  
**っ**  
**こ** こっこ (ねばり強い子)

今年度の指導の重点

- 1 指導技術を高め、授業改善を行い、わかる授業・楽しい授業づくりを進める。
- 2 基礎基本の定着に向けて、くりかえし学習・補充学習・少人数指導等を取り入れ、個に応じた指導を充実させる。
- 3 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行い、特別支援教育を充実させる。
- 4 児童の達成感を大切に、自己肯定感を育てる積極的な生徒指導を推進する。

国語Aの漢字の読みや文中の主語を捉える問題、国語Bの要旨を捉えて書く問題は、県平均より正答率が高い。  
 算数Aの「数と計算」「数量関係」の領域は、比較的よくできており、特に小数の計算は、県平均より正答率が高い。B問題においても、「図形」の性質を基に知識・理解を問う問題や、「数量関係」の技能問題の正答率は県平均より高い。  
 ○理科では、自然現象についての知識・理解は、県平均より正答率がかなり高い。また、区分として「物質」が、比較的良くできていた。  
 算数・理科における知識・理解の観点は、正答率が高く、県平均を上回っている。  
 国語では、長文を読み、登場人物の関係を捉えたり、必要な情報を読み取ったりすることができにくく、無解答率も高い。特に、B問題はその傾向が強く、記述式の問題に答えることに課題が大きい。  
 算数Aの「量と測定」「図形」の領域の課題が大きく、特に角度の問題ができていなかった。B問題では、「数と計算」領域の概数の問題ができていなかった。  
 ○理科では、振り子や電磁石などの「エネルギー」、星座などの「地球」の区分の課題が大きい。  
 算数・理科ともに、短答式・選択式の問題には取り組めるが、数学的思考・科学的思考を必要とする活用問題はできていない。無解答率も高く、「途中であきらめた」「全く解答しなかった」という自分の質問項目のポイントも高かった。

○朝食、起床時刻など、基本的な生活習慣がついている割合は比較的高いが、就寝時刻が決まっていない児童がやや多のは、少し気になる。  
 ○「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「将来の夢や目標を持っている」「地域の行事に参加している」「人の気持ちのわかる人間になりたいと思う」などの肯定的価値観を持っている割合が高い。  
 ○国語・算数・理科ともに「勉強が好き」「大切だと思う」「内容がよくわかる」の項目のポイントは県平均より高い。  
 普段1日あたり、テレビ・ビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間は県平均より少なめであるが、「テレビゲームをする時間」は県平均よりかなり多い。また、「携帯電話やスマートフォンの通話やメールの時間」もかなり多い。  
 家庭学習の時間は、「全くしない」は0%であり、「1時間以上」が半数を超えているが、「30分より少ない」の割合が高く、家庭学習の時間が少ない児童も多い。特に、予習をしている児童の割合が低い。  
 読書時間はかなり短く、「0分～10分より少ない」児童が、約半数を占めている。  
 「近所の人にあいさつ」をするという項目は、県平均より高く、大変よくできている。

成果と課題

○漢字の読みや計算など、繰り返し練習を積み重ねてきている基礎基本的なことは、少しずつ力をつけてきている。  
 ○どの教科も、選択式・短答式の無解答率は低く、しっかり取り組もうとする意識は高い。  
 ○どの教科も、「勉強が好き」「大切だと思う」と回答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。  
 ○学習に対して前向きに取り組もうとする意識はあるものの、実態としては、やや困難な問題になると、途中で諦めてしまったり、全く無解答だったりするなど、解答の仕方がわからない実態がある。また、家庭学習においても、時間が短かったり、予習・復習の意識が低かったり、内容が不十分である傾向がある。  
 ○どの教科も、活用型の問題に対して、しっかり読んで、じっくり思考したり、記述式で説明したりすることを苦手としている。  
 ○テレビゲーム、スマートフォンの時間が長いためか、就寝時刻が定まらない傾向が見られるので、生活習慣が乱れないよう手立ての必要性がある。

課題に対応した改善方法

共通理解している校内でのきまりを徹底し、学習規律の整った、主体的に学習に取り組む環境づくりを進める。  
 「家庭学習の時間の充実」をめあてとして、中学校区の取り組みとタイアップさせながら、メディアコントロールを進める。  
 家庭学習を充実させるために、校内で研修をし、自主学習を進めていく。  
 朝学習の充実をはかり、漢字・計算の強化週間を設ける。  
 授業の中や、放課後学習を使って、B問題に取り組む、じっくり考えたり、そのとき方を教えたりする。  
 授業改善をはかり、「めあて・まとめ・振り返り」をきちんと位置づけたものにする。また、自分の考えを伝え合ったり、ノートに書いたりする活動をしっかり位置づけていく。  
 面談と共に、管理職等による授業参観を行い、授業作りの工夫をしていく。

取組の検証方法及び検証時期

家庭学習の充実に向けて・・・「勝北っ子ウィーク」(10月、12月、2月)  
 学習に対する意欲付け・・・児童へのアンケートの実施(学期ごと)  
 4・5年生の学力たしかめテスト実施(11月)  
 3年生の学力検査(2～3月)  
 全国や県の学力テストの過去問題に取り組む(A・B問題ともに)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

授業改善「めあて・まとめ・振り返り」・・・80%  
 朝学習漢字・計算教科週間・・・前学年の内容80%以上の定着  
 過去問題(活用問題)の取り組み、(話し合ったり、書いてまとめたりする)・・・(4・5・6年)  
 家庭学習が、学年のめあての時間確保できている児童の割合をあげる。(予習・復習の意識付け)  
 「各教科が好き」「授業がわかる」と回答する児童の意識は高いので、よりその割合を高め、理解の実態に結びつこうとする。